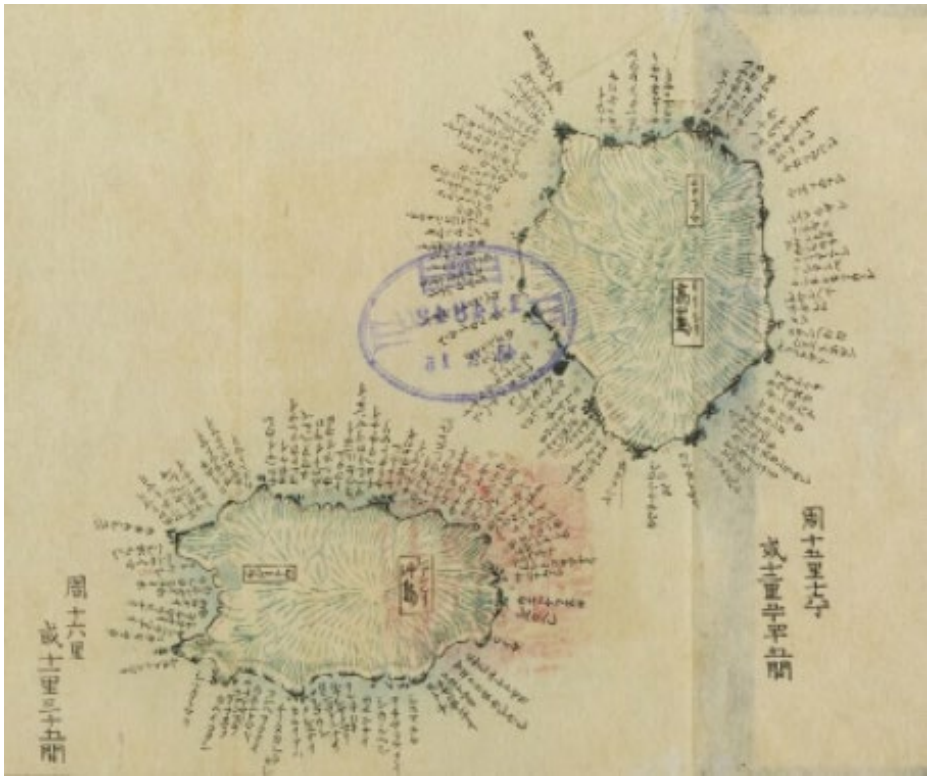
京都大学地理学談話会

会　報

第 33 号



2022

［目次］

寄稿
私と地理学教室（岩鼻通明） 1
地理屋から地理屋へ（井出健人） 3
フィールドの方々との出会いに導かれて（杉江あい） 5

2021 年度活動報告
秋季談話会（OB 交流会） 7
春季談話会（論文発表会） 7

研究室便り
地理学専修の動静 8
卒業生・修了生の進路 8
新メンバーの自己紹介 8
大学院生らの研究状況 11
2022 年度講義題目 12
会員からの寄贈図書 13

事務局から
2021 年度会計報告 16
訃報 16
住所不明者についてお願い 16
地理学談話会の運営について 18
会費納入のお願い 20

表紙は「東西蝦夷山川地理取調図」（1860 年、京都大学文学研究科所蔵）より利尻島・礼文島付近

寄稿

私と地理学教室

岩鼻　通明 *

近頃, SDGs ばやりだが, 在学中は田中角栄首相の日本列島改造論の時代で，第 1 次オイルショックにも遭遇した。一方で, 公害や環境破壊も話題になり，卒論では環境破壊をテーマにしたいとも考えたが人文地理学の範疇外であり，開発と自然保護の接点から，長野県戸隠村の観光開発をテーマに選んだ。スキー場や後に地すべり災害で有名になった有料道路戸隠バードラインの開通によって，急速に観光地化が進んだ実態について中社集落を事例に調査した。戸隠は山岳信仰の霊山としても知られ，修論で出羽三山信仰を取り上げる契機ともなった。

学生時代は海外への関心はあまりなかったのだが, 博士課程に進学した年に, 韓国の誠信女子大から崔基燁先生が水津先生から基礎地域論を学ぶために留学してこられた。私は崔先生のチューター役となり，よくごいっしょに行動した。山形大学教養部に赴任が決まった 1983 年の夏休みに崔先生を訪ねて韓国へ初渡航した。下関から関釜フェリーで往復した。まだ, ソウル以外では高層建築のほとんどない時代だった。旅の後半では先輩の山田正浩先生と同行した。

浮田先生の講義で，40 歳を過ぎると海外研究に目が向くという旨をお聴きしたのだが，1993 年に仙台から韓国便の国際線が就航したので，妻と 2 泊 3 日のソウル・ツアーに出かけた。ちょうど韓国の古地図集が刊行されたので，崔先生に入手をお願いして現地で受け取った。この 10 年ぶりの旅で韓国に興味を抱くようになり，年に数回は足を運ぶようになった。改組で農学部に移ってからの 1998 年夏には学振の短期派遣で崔先生の大学に受け入れていただいた。

この時点では韓国の古地図や山岳信仰研究を志したのだが，日本とは異なる困難に気づき，2001 年夏に日韓文化交流基金による 3 ヶ月の滞在時には，伝統的町並みの調査に切り替えた。その頃は訪問客も少なかった安東河回村やソウル北村と全州の韓屋の町並みは，いまや一大観光地となっている。

2003 年 12 月にも，再び学振の短期派遣でソウルや全州の都市の町並み調査に出かけたが, 連日の真冬日で屋外調査が難しく, 映画館に避難して韓国映画を鑑賞する機会も多かった。それで, 韓国映画にはまってしまい，大学でも地域貢献が求められるようになったこともあって，映画を通した地域活性化が新たな調査テーマとなった。

地元の山形市では, 2 年に一度, 国際ドキ

* 山形大学名誉教授，1976 年卒

ュメンタリー映画祭が開催されており，その韓国語ボランティアも経験しながら，映画の上映の場としての映画祭に着目するようになった。2005 年秋の山形の映画祭は，いわゆる在日特集が企画され，民団や総連，韓国と北朝鮮制作の数多い作品が上映されて，夢のような思い出となり，多くの映画人とも知り合った。

そして，釜山・全州・富川の韓国三大映画祭に通うようになり，山形や夕張など，日本の映画祭との比較研究も試みた。2011 年の東日本大震災は映画祭にも影響を与えたが，その秋の山形国際ドキュメンタリー映画祭では震災特集上映が行われた。それに刺激されて，被災地の映画館の観客アンケートを通して震災被害に迫る研究を試み，山形でも次の映画祭の特集上映の観客にアンケートを行った。直接的ではないとしても，震災被害のひとつの側面をとらえることはできたような気がする。

定年退職の少し前に岩波新書の執筆を編集者から依頼され，再び山岳信仰の世界へ引き戻されることになった。文学部東洋史出身の有能な編集者のおかげで，『出羽三山』を一冊にまとめることができた。刷を重ね，ロングセラーとなって嬉しい限りである。退職時には海青社の旧知の宮内社長に無理をお願いして山岳信仰研究を一冊に集大成することができた。

定年後は学会発表や学会誌投稿を心がけているが，地方の地理学会は壊滅状態に近く，一方で民俗学会は各県ごとの活動が活発に行われている。目下は山形盆地が中心の村山民俗学会，および県内の庄内・酒田・置賜をまとめた山形県民俗研究協議会の事務局を預かり，会誌の編集・刊行などに尽力している。ご縁があって，先輩の金坂清則先生にイザベラ・バードに関する画期的な論文を投稿いただいたことはありがたかった。

コロナ禍で海外へ行くことのできない日々が続いているが，その直前の 2019 年 2 月下旬にベルリンを訪問して，ベルリン国際映画祭で映画を見たり，美術館・博物館巡りやオペラなどのコンサートを楽しんだことは貴重な体験だった。再び海外へ出かけられる日が待ち遠しい。

写真：白山室堂にて（中央：筆者　右側：崔先生　左側：誠信女子大・文教授，1999 年夏）

地理屋から地理屋へ

井出　健人 *

地理学研究室とわたし

文学部新館 6 階の，西日が照らす地理学研究室の扉を叩いた時の驚きは鮮明に覚えている。受験科目「地理 B」の世界だけを地理だと思っていた自分の世界観と，そのはるか彼方に広がる「地理学」の世界とのあまりの断絶に感じたショックはとりわけ強かった。

地理学研究室の一員としての私は 2013 年に学部を卒業，2015 年に修士課程を修了している。優等生ではなかったが，研究室時代には，あちこちの集まりに参加させていただき，多くの素敵な出会いをした。その中でも「地理情報システム（GIS)」と「フィールドワーク」との出会いは今でも人生の糧となっている。

GIS は，石川義孝先生が講義内で何気なくおっしゃった「これから役に立つからやっておいて損はない」という言葉がきっかけだったと記憶している。GIS があれば世界の全てを地図に描き起こせるような気がしてのめり込んだ。近隣の大学の地理学徒たちと，中高での GIS 活用を支援する NPO を立ち上げたのも学部生の頃だった。フィールドワークは，当時まだ文学部に来られる前だった水野一晴先生が主催する「自然地理研究会」に出入りし，月に一度の巡検であちこち通い，文献や統計資料だけでは得られない，現地で自分の五感で得た情報から帰納的に思考することの楽しさと，巡検のあとのビールの味を覚えた。百瀬川扇状地の扇端で湧水を見つけたときに，教科書上の知識とフィールドでの経験が一致して覚えた感動は忘れることができない。

地理学の入門書でしばしば，”Geography” の語源に触れて「地の理を記述する学問」という紹介を見かける。研究室生活を送るなかでいつしか，高校で親しんだ「地理」は先人が著した「記述」を追う科目で，地理学は自分の手で「記述」を著す学問分野なのだな，と整理するようになった。研究室の扉を叩いたときに覚えた，両者の断絶によるショックを解消できた瞬間であり，自分の「地理」に対する世界観が大きく広がり，地理・地理学に対する愛着と，地理屋としてのアイデンティティを形成するきっかけであった。

GIS ソフトウェアベンダーへ

修士課程を折り返す頃には漠然と「“地理” を仕事にできるような道に進みたい」という思いを抱いていた。医工系の友人たちとの日常会話の中で感じていた「人文科学は仕事にならない」という眼差しに対する反

* ラ・サール学園教諭，2013 年卒

骨精神に起因するものだったかもしれない。

その頃集中講義で研究室 OB の社員が講義を持たれていた事もあり，半ば自然に GIS のソフトウェアベンダー「ESRI ジャパン」へ新卒入社することになった。

ESRI ジャパンではちょうど 7 年間, 営業として勤務した。大学から見える世界しか知らなかった身には,「こんなところでも GIS が活用されているのか！」という新鮮な体験の連続だった。GIS は大学や地理教育くらいでしか使われないと思って飛び込んだ世界だったが，7 年の間に官公庁やインフラ企業など幅広い業界での GIS 活用に触れた。お客さん先に通い詰めてサポートすることもあったが, 現場で, 自分の五感を頼りに仕事をしていく感覚は，学生時代のフィールドワークで味わった感覚に近かったなと思う。GIS 業界は発展途上で活躍の場は多く，また GIS を経験してから他分野へ飛び出すと，見えるものも出来ることも違うと思うので, ぜひ後輩諸賢にも, 当業界への就職をご検討いただきたいなと思う次第です。宣伝。

地理教員への転身

学生の頃からいつかは教壇に立ちたいと思っていたが，縁があり今春から母校である鹿児島のラ・サール学園に地理教員として勤務している。2022 年度から実施されている高校新課程では「地理総合」という科目が必修科目として新設されたが，GIS の利活用もこの科目の内容に挙げられており GIS ベンダーにいたころよりも GIS に触れる時間が長くなった。楽しいです。中高生のエネルギーに圧倒される日々を送っているが, 授業後に質問にくる生徒の, 好奇心に輝く目を見るたびに，教員というのは幸せな仕事なのだな, と思う。新任教員にはまだたくさんの苦難が降りかかってくると聞いているが, 今のところ 10 対 0 で幸せな日々を送っています。

終わりに

地理学は，空間という側面からいくつかの学問分野に横ぐしを通す学問，という話を聞いたことがある。自分の, 文学部で修士課程を出て IT 企業で営業マンからの教員へ転職, という転身については, 地理の世界の外の知人には, 信じられない, という反応を受けるのだが，これもまたいくつかの世界に地理学という横ぐしを通していくようなキャリアパスなのかな, と思っている。なんだかんだで面白い経験がたくさんできたので, 今度は教員として, 一人でもこの地理の沼に後進を送り出せるように精進したいと思います。良いオチが見つかりませんでしたが, このあたりで筆を置きます。お読みいただきありがとうございました。

フィールドの方々との出会いに導かれて

杉江　あい *

2022 年 4 月に地理学専修に着任した後，内外の複数の人たちから，以前から水野先生と面識があったのかと尋ねられた。私のような無名の地理学徒が名古屋大学から来てしまったので，同大学を卒業されている水野先生とつながりがあったのだろうと思うのは無理もない。しかし，残念ながらそれはハズレで，水野先生にも米家先生にも，初めてお目にかかったのは 4 月 1 日の辞令交付式の日だった。むしろ，それまでに面識があり，私の学部生のときの様子を知られていたら，私が地理学専修に来てこの拙文を書くこともなかっただろうと思う。というのも，私は先生たちに叱られてばかりのどうしようもない学生だったからだ。週 5〜6 で他大学やスタジオに通い，夜（ときには朝）までストリートで踊る日々だったので，学部生のときに授業で習ったことはほとんど記憶にない。今考えると本当にもったないことをした。しかし，摂食障害（だったということは後でわかったのだが）に苦しんでいた当時の私は，出口が見えない真っ暗な穴の中のような，まさにアンダーグラウンドな生活を送っており，熱中できる何かにすがって生き延びるしかなかったとも思う。

そんな状態だったので卒論の口頭試問も修羅場そのものだったが，そのときの私の頭の中は先生たちに叱られていることではなく，別のことで一杯だった（今だったらひたすら平謝りしただろうが，若いときは怖いもの知らずだったとつくづく思う）。私はバングラデシュの村で物乞いをしている人たちを対象に卒論を書いたが，ベンガル語が話せなかったので（のちに思いがけず人生のパートナーにもなる）通訳を介して調査をしていた。調査の時には，下手な英語で投げた質問が果たしてきちんと翻訳されて相手に伝わっているのか，相手がいろいろと話してくれているのに，通訳の口からは雑な要約しか聞けていないのではないかと，不安ばかりが募った。口頭試問ではそのことを問題視する先生は皆無だったが，これこそが私にとっては大問題だったのだ。卒論の調査を終えた後，絶対にベンガル語を勉強しようと決意して資金集めにアルバイトを掛け持ちし，口頭試問の次の日にバングラデシュに発って語学学校に入った。

私は本が嫌いだと言って先輩に呆れられていたが，フィールドワークだけには異様な思入れがあった。特に，4 年生のときに初めて 1 人でバングラデシュに行き，物乞いの人たちの調査をしたときには自分の考えの甘さを痛感させられ，「ダンスと二足のわ

* 京都大学文学研究科地理学専修教員

らじなんて言ってられない」と思った。これまで勉強してこなかったことへの焦りや，ダンスの師匠がアメリカに行ってしまったこともあったが，語学学校に入ったあと，帰国してもダンスの世界には戻らなかった。それでももう，真っ暗な穴の中にいるような感覚に陥ることもなくなった。フィールドワークを重ねるうちに，ちょっと読むだけで眠くなってしまっていた学術的な文章も何とか人並み程度に読めるようになり，座学の重要性も理解できるようになった。地理学がフィールドワークを研究方法とする学問じゃなかったら，私はとっくに学術の世界からも消えていただろう。今ではフィールドワークが孕むさまざまな問題にも自覚的になり，また家族にも迷惑をかけてばかりだが，それでもフィールドワークが好きだ。つい数日前もフィールド（ワーク）への異様な熱意で，日本のフィールドの方から「変態だ」と言われた。これを誉め言葉と受け取ってしまうあたり，やはり変なのかもしれない。

感受性が豊かでその後の人生の肥やしになる経験をたくさんできる学生時代に思う存分，フィールドワークができない（できなかった）人を見ると，やりきれない気持ちになる。もちろん，今はコロナ禍の影響でそもそもフィールドに行くことができないという問題もある（私自身もここ数年は育児とコロナ禍ですっかりフットワークが重くなってしまって，羽をもがれた虫のような気分である）。他方で，フィールドワークでハラスメントに遭い，その経験がフィールドワークにとどまらず，研究やキャリア，ときには人生にまで深刻な影響をもたらしてしまうことも少なくない。2020 年から，私を含むさまざまな分野の若手有志が集まり，NPO 法人 FENICS (jpn.org)と連携しながら，共同研究「フィールドワークとハラスメント（live-on.net)」を実施し，この問題に取り組んでいる。地理学専修でも，学生さんたちが安心して研究・フィールドワークをできるように，また万が一ハラスメントに遭ってしまった場合に対処・回復できるように，微力ながら尽力していきたい。

バングラデシュロヒンギャ難民キャンプでの子連れフィールドワーク（2018 年）

2021 年度活動報告

■秋季談話会（OB 交流会）

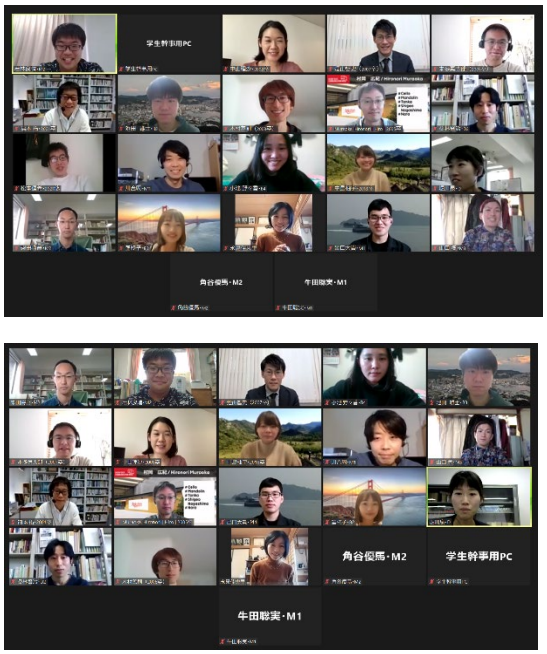
2021 年度の秋季地理学談話会は，新型コロナの感染拡大により，教室見学会，講演会，懇親会はとりやめ，11 月 6 日（土）に OB 交流会のみオンラインで開催しました。

OB 交流会で幹事をつとめてくださった卒業生の方がた（福本拓さん（2001 年卒），中山理沙さん（2008 年卒）），在校生の方がた（堀川泉さん（2016 年卒），若林良輔さん（2020 年卒），柴田将吾さん（2022 年修））に，お礼申し上げます。

■春季談話会（論文発表会）

卒論・修論発表会についても，昨年にひきつづき予餞会はとりやめ，2 月 5 日（土）に論文発表会のみオンラインで開催しました。卒論 14 名，修論 5 名の発表が行われました。

司会をつとめてくださった在学生の方がた（桑林賢治さん（2016 年卒），神品芳孝さん（2019 年修），出口大貴さん（2021 卒））にお礼申し上げます。



当日のスクリーンショットより

当日のスクリーンショットより

■地理学専修の動静

2022年3月をもって田中和子教授が退職しました。また4月に杉江あい講師が着任しました。2022年度の専修主任は米家泰作教授が，また専修の事務は引き続き三上純子さんが務めています。2023年3月には水野一晴教授が定年退職の予定です。

本年度（2022年4月現在）は博士後期課程6名，修士課程10名，4回生24名，3回生24名また，学術振興会特別研究員（RPD）1名が在籍しています。

2021年度の実習旅行は，10月25日から28日にかけて，京都府福知山市で実施しました。3回生9名，2回生18名が参加しました。コロナ禍のもと，京都から遠方の地域での実施が困難なる可能性を考え，比較的近い地域を調査地として選定しました。

実習旅行初日に由良川堤防「明智藪」を巡検

■卒業生・修了生の進路

（学部）

重永　瞬　京都大学文学研究科修士課程

森下　凌　国土交通省

石川聡一郎　京都大学文学研究科修士課程

稲田知希　五洋建設株式会社

大柳真子　株式会社三井住友銀行

清池祥野　京都大学アジアアフリカ地域研究研究科修士課程

倉田瑞希　京都大学文学研究科修士課程

小池野々香　京都大学文学研究科修士課程

鈴木洋太郎　京都大学文学研究科修士課程

高比良睦　京都大学文学研究科修士課程

田中　豪　デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社

山下萌登　愛知県庁

（修士課程）

山口　凜　有限会社ウニコ

塩崎皆人

角谷優馬　日本精工株式会社

柴田将吾　京都大学文学研究科博士課程

若林良輔　凸版印刷株式会社

（博士後期課程）

土岐　馨　黒部峡谷鉄道

■新メンバーの自己紹介

2022 年 4 月に 3 回生に進級して，地理学専修に分属した方々から，いただいた自己紹介文を掲載します。

青木　英太郎

高校地理が好きでこの専修を選択しました。農業と漁業に関連した地理学に興味があります。出身都市は仙台→四日市→山形→高知→静岡→高松です。趣味はソフトテニスとギターです。よろしくお願いします。

有馬　楓

鹿児島県出身です。地学が好きで地理学に進んできました。まだまだ初心者なので，皆さんからたくさん学んでいきたいです。何事もハマりやすいタイプなので，地理のことでも，それ以外でも，気軽に誘ってくれるとうきうきでついていきます。よろしくお願いします。

安藤　智哉

初めまして。3 回生の安藤智哉です。出身は奈良県です。小さい頃から地図が大好きだったので，この専修で地理学を学べることを嬉しく思っております。趣味は知らない街に行くことで，最近は市役所を巡ることにハマっています。これからどうぞよろしくお願いします。

市川　玉織

新 3 回生の市川玉織と申します。東京都の筑波大学附属高校出身です。趣味は写真を撮ることや旅行に行くことで，自然が豊かなところに出かけることがとりわけ好きです。高校の地理では気候や地形関連の分野を特に興味深く感じていましたが，大学の講義で知った人文地理も面白そうなので，研究分野はまだ定まっていません。よろしくお願いします。

岩岡　侑汰

はじめまして，岩岡侑汰と申します。出身は淡路島です。地元では，米や野菜を育てたり，釣りをしたりしていました。部活は，ライフル射撃部に所属してます。全国の射場に旅行しようと計画中です。交通やまちづくりに興味があります。よろしくお願いします。

大澤　淳平

新 3 回生の大澤淳平です。　神奈川県相模原市出身です。　高校の時に地形や地質の面白さを知り，地理学を学びたいと思いました。 鉄道の乗り潰しとお城巡りを兼ねた旅行が趣味で歴史地理学にも興味があります。 弓道部所属です。 よろしくお願いします。

岡崎　優樹

はじめまして。この度，地理学専修に進ませていただくことになりました，岡崎優樹と申します。出身は滋賀県守山市で，琵琶湖大橋をはさんで，大津市のちょうど対岸に位置する都市です。中高時代より，地理に興味があり，こちらの専修に進むことにしました。どうぞよろしくお願いします。

岡田　太郎

新 3 回生の岡田太郎です。東京都出身です。1，2 回生の頃に受けた水野先生や山村先生の講義がきっかけで地理学専修を希望

しました。気軽に話しかけてもらえると嬉しいです。よろしくお願いします。

岡田　陸太郎

はじめまして。岡田陸太郎と申します。出身は北海道です。趣味で，地図やイラストなどを媒体として空想の地域を創作する活動をしています。おでかけするのも好きです。サークルはクイズ研究会と地理学研究会に所属しています。よろしくお願いします。

片桐　潮士

はじめまして。3回生の片桐と申します。愛知県豊橋市の出身です。大学に入学後地理学の楽しさに触れ，地理学を志すこととなりました。鉄道旅行に加え，最近は自動車を運転しての移動も趣味になりました。よろしくお願いいたします。

小林　遼

学部3回生の小林遼です。出身は東京で，京都大阪間よりも京都東京間の行き来の方が多いです。中高は高2の夏を除きほぼ帰宅部でした。大学では熱気球サークルに所属しています。趣味は最近だとサッカー見るのとかが好きです。よろしくお願いします。

高原　佳穂

高原佳穂と申します。神奈川県横浜市出身ですが，高校は都内でした。サークルでピアノ（クラシック中心）と競技かるたに取り組んでいます。よろしくお願いします。

中野　颯太

埼玉県出身の中野颯太と申します。旅行が好きなことと，高校のとき新潟市の地形を調べて面白さを感じたことがきっかけで地理学専修に入りました。高校野球が好きで毎年甲子園に通っています。プロ野球では地元の埼玉西武ライオンズを応援しています。

原川　優羽紀

3回生の原川優羽紀です。岐阜県岐阜市出身です。アカペラサークルと料理系サークルに所属していて，おいしいものを食べることが好きです。今年は電車や自転車のお出かけをたくさんしたいなあと思ってます。よろしくお願いします。

平原　大輔

3回生の平原大輔です。京都出身で西京高校出身です。アメリカンフットボール部に所属しています。よろしくおねがいします！

福山　一茂

ギターの弾けない福山，野球のできない一茂です。日本のひなた宮崎県から来ました。民放は2局ですが，食べものは何でも美味しいです！　料理，旅行，地図（空想地図や今昔マップ）が好きで，河川と防災に興味があります。どうぞよろしくお願いいたします。

細川　夏希

初めまして，細川夏希と申します。静岡市出身で，現在は奈良市に住んでいます。熱気球サークルに所属しています。パイロットを目指して訓練中です。食べることが好きで，最近は町中華の良さに気づきました。こ

れからどうぞよろしくお願いします。

三谷　幸聖

3回生の三谷幸聖です。香川県出身です。高校では歴史選択でしたが，街をぶらぶら歩いている中で生まれるふとした疑問を解き明かしてくれる地理に興味を持ったので，この専修を選びました。クイズ研究会にも所属しています。よろしくお願いします。

室　柊子

新3回生の室柊子です。愛知県名古屋市の旭丘高校出身です。サークルは尺八とギターをやっています。両方とも大学から始めた初心者なので，なかなか大変です。最近エビ料理にはまっています。よろしくお願いします。

山縣　一太

文学部地理学専修3回生の山縣一太と申します。出身は千葉県の市原市です。体育会のソフトテニス部で毎日練習に打ち込んでおります。地理学専修では，様々な観点から地理学に関する学びを深めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

山崎　悠太

広島県広島市出身の山崎悠太です。自然と人間の関わりや自然地理学に興味があります。中学・高校と水球をやっていて，現在も体育会で水球をしています。趣味はスポーツ，野球観戦，筋トレ，映画鑑賞です。よろしくお願いします！

山本　泰輝

3 回生の山本泰輝です。出身は大阪府枚方市です。分野としては自然地理と観光に興味があります。サークルではテニスをしていますが京大生のみのところで，自分含め落ち着いてテニスしています。趣味はライブ鑑賞です。よろしくお願いします。

渡邉　一輝

京大グライダー部の渡邉です。だいたい空を飛んでいます。空から地上を見ると，地図に描かれている地形がリアルスケールで広がっていて感動します。昨年は史学を専攻していましたが，地理が好きなことに気づき転向しました。なので，みなさんとははじめましてですが，これからよろしくお願いします。

■大学院生らの研究状況

2021 年度の院生らの研究成果を報告します。前号までは，各院生の査読論文を過去にさかのぼって全て掲載しておりましたが，今号より前年度 1 年間の成果を記すにとどめることとします。ただし，査読論文以外に執筆したものや，学会発表についても含めることとしました。

＜学術論文＞

김현희(金玹熙)，김다빈，水野一晴，황가영，공우석，‘사례　연구(우이도)로　살펴본　도서지역　폐기물의　현황과　분포’(事例研究(牛耳島)からみた島嶼地域廃棄物の現況と分布)，한국도서연구(韓国島嶼研究) 33, 2021 年 8 月, 205-218.

神品芳孝「インド北西部ラダックにおける農村の変化」, 地理学評論 95 巻 1 号, 2022

年 1 月，75-88 頁

＜その他の刊行物＞

重永　瞬『統計から読み解く色分け日本図』，彩図社，2022 年 1 月

＜学会発表＞

堀川 泉「地域との繋がりの中で学校給食の食材や献立に見出される価値」，人文地理学会・第 139 回地理思想研究部会，2021 年 9 月 4 日，オンライン

神品芳孝「関東平野における屋敷林・防風林の変化とその要因」，日本地理学会秋季学術大会，2021 年 9 月 18 日，オンライン

桑林賢治「沖縄と東京におけるアイヌの「記憶の場所」と先住民性」，日本地理学会秋季学術大会，2021 年 9 月 18 日，オンライン

立石和奏「自然要因および人間活動が「お花畑」の植生分布に与える影響 」，日本山の科学会 2021 年秋季研究大会，2021 年 10 月 30 日，オンライン

立石和奏「滋賀県伊吹山における「お花畑」の植生分布とその立地条件」，植生学会第 26 回大会，2021 年 10 月 16 日，オンライン

神品芳孝「インド北西部ラダックにおける農外活動の導入に伴う農村の変化」，日本山の科学会 2021 年秋季研究大会，2021 年 10 月 30 日，オンライン

桑林賢治「先住民アイヌのローカルなコミュニティと「記憶の場所」―北海道ウタリ協会の支部によるモニュメントの建立を事例に―」，第 45 回関西若手ルーラル研究会，2022 年 3 月 29 日，キャンパスプラザ京都・オンライン

■2022 年度講義題目

＜講義（系共通科目）＞

講義 I　自然地理学概説／水野一晴

講義 II　人文地理学概説／米家泰作

＜特殊講義＞

山と森の歴史地理学／米家泰作

近代日本と地理的知／同上

中国農村の生活空間／小島泰雄

地理情報・衛星画像の処理・分析の基礎／小方 登

世界の自然環境と人々の生活や社会 1 ／水野一晴

世界の自然環境と人々の生活や社会 2 ／同上

ジェンダー地理学の再構築：空間の男性学／村田陽平

健康の地理学／同上

地域多様性を活かした未来づくり／河本大地

農村地域研究実践／同上

自然生態論 I ／小坂康之

人間と自然の関係性の理解／大山修一

論文講読と地域調査から学ぶ歴史地理学／山村亜希

地誌の歴史と現代的意義／杉江あい

バングラデシュの動態地誌：国家・開発・経済／同上

湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論／松四雄騎

気象・気候でよみとく地球環境／財城真寿美

地理学特殊講義／鈴木晃志郎

＜演習＞

演習 I A・地理学研究法 1A／水野一晴・米

家泰作・杉江あい
演習ＩＢ・地理学研究法 1B／同上
演習ⅡＡ・４回生演習 2A／同上
演習ⅡＢ・４回生演習 2B／同上
地域の諸問題／同上
『信長公記』の地理を読む・歩く／山村亜希
スケールを考える／小島泰雄

＜講読＞
英書講読 I／杉江あい
英書講読 II／同上

＜実習＞
地理学実習／水野一晴・米家泰作・杉江あい

■会員からの寄贈図書

昨年度，地理学教室にご寄贈いただいた図書の一覧です。寄贈してくださいました方々に厚く御礼申し上げます。これらの図書は，文学研究科図書館または地理学学生共同研究室に配置し，学生ならびにスタッフの研究・教育に活用させていただきます。なお，一昨年度までは寄贈図書・雑誌を全て掲載しておりましたが，交換雑誌を多く含むこともあり，今号より談話会会員からの寄贈図書に限定して記載することといたします。

- Youths in Struggle: Unemployment, Politics, and Cultures in Contemporary Africa／Wakana Shiino and Karusigarira eds. ／Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa Tokyo University of Foreign Studies
- 福井県地質図（2010 年版）／福井県／財団法人福井県建設技術公社
- 福井県のすぐれた自然　地形・地質編／福井県／福井県県民生活部自然保護課
- Homo geographicus: a framework for action, awareness, and moral concern／Robert David Sack／Johns Hopkins University Press
- 福井県土地利用規制図（福井県土地利用基本計画の参考図）／福井県／福井県県民生活部自然保護課
- Ethnic Enclaves in Contemporary Japan International Perspectives in Geography／Editor Yoshitaka Ishikawa／Springer
- 世界と日本の地理の謎を解く／水野一晴／ＰＨＰ研究所
- 自然のしくみがわかる地理学入門／水野一晴／ＫＡＤＯＫＡＷＡ
- 大津波と里浜の自然誌／岡浩平・平吹喜彦編／蕃山房
- わける・ためる＜生態人類学は挑む SESSION 2＞／寺嶋秀明編／京都大学学術出版会
- 外来植物が変えた江戸時代　里湖・里海の資源と都市消費／佐野静代／吉川弘文館
- 大学的オーストラリアガイド　こだわりの歩き方／鎌田真弓編／昭和堂
- GIS 地理情報システム／矢野桂司／創元社
- 文化女子大学所蔵　西洋服飾関係欧文文献解題・目録／文化女子大学図書館
- 名古屋ご近所さんぽ／溝口常俊／風媒社
- 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所紀要 No.19／京都外国語大学京都ラテ

ンメリカ研究所
- 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所紀要 No.20／京都外国語大学京都ラテンメリカ研究所
- くずし字解読辞典 普及版／東京堂出版
- 地形で読む日本―都・城・町は、なぜそこにできたのか／金田章裕／日経BP 日本経済新聞出版本部
- 戦時改描図論考－偽装された地形図－／山田誠／海青社
- 図説 世界の地域問題 100／漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編／ナカニシヤ出版
- 和蘭風説書集成（上下 2 冊）／日蘭学会法政蘭学研究会編／吉川弘文館
- 蝦夷人物図説／金沢書店
- Picturesque Representations of the Dress and Manners of the Russians／Alexander (W.) ／James Goodwin
- Voyages & Travels to the East Indies 1653-1670／Johan Nieuhof／Oxford University Press
- Neu=Japan／Goldschmidt (R.) ／Verlag von Julius Springer
- アイヌ風俗の絵巻／西川北洋／トミヤ出版部
- The Art of Captain Cook's Voyages／Cook, Rudiger Joppien & Bernard Smith／Yale University Press
- 貴族日記が描く京の災害／片平博文／思文閣
- 山口弥一郎のみた東北　津波研究から危機のフィールド学へ／内山大介・辻本侑生／文化書房博文社
- かたちの事典／高木隆司編／丸善
- 防災事典／日本自然災害学会監修／築地書館
- 第 82 回企画展　中国の風俗人形―近代以降の土人形と黄楊人形―／天理大学附属天理参考館
- 中国東北部の玩具―日本に来た旧満州の郷土玩具―／龍野市立歴史文化資料館
- NARODOWY ATLAS POLSKI
- 旅農民のうた ： 裏石垣開拓小史／森口豁／マルジュ社
- The city shaped : urban patterns and meanings through history／Spiro Kostof／Little, Brown and Co.
- 忘れられた明治の探険家　渡辺哲信／白須浄真／中央公論社
- スコータイ美術の旅 ： タイの古代遺跡／金子民雄／胡桃書房
- Space, knowledge and power : Foucault and geography／Jeremy W. Crampton and Stuart Elden／Ashgate
- The city in time and space／Aidan Southall／Cambridge University Press
- 越後・佐渡の定期市／新潟県教育委員会編／第一法規出版
- The political mapping of cyberspace／Jeremy W. Crampton／University Chicago Press
- Gender and modernity : perspectives from Asia and the Pacific／edited by Hayami Yoko, Tanabe Akio, Tokita-Tanabe Yumiko／Kyoto University Press
- PLAN DES PAROISSES DE PARIS AVEC LA DISTINCTION DES PARTIES ÉPARSES QUI EN DÉPENDENT. dressé par ordre de...

Monseigneur A.-E.-L. Le Clerc de Juigné, archevêque de Paris／REPRODUIT PAR LES SOINS DU SERVICE DES TRAVAUX HISTORIQUES DE LA　VILLE DE PARIS

- 知の考古学／ミシェル・フーコー著；中村雄二郎訳／河出書房新社
- フーコーの「全体的なものと個的なもの」／ミシェル・フーコー，北山晴一，山本哲士著／三交社
- 中央アジア古代語文献　西域文化研究（三）堀賢雄西域旅行日記　明治三十六年一月一日より明治三十六年三月四日まで／西域文化研究編
- 中央アジア古代語文献　西域文化研究（四）堀賢雄西域旅行日記　明治三十六年三月五日より明治三十六年五月二十日まで／西域文化研究編
- 中央アジア古代語文献　西域文化研究（五）堀賢雄西域旅行日記　明治三十六年五月二十一日より明治三十六年七月十一日まで／西域文化研究編
- Magyarország régi térképeken Gondolat Könyvkiadó-Officina ／Pal Hrenko／Árpád Papp-Váry
- 都市の土地利用モデル／土木学会
- 福井県における中山間地域の内部格差の要因分析と総合的環境保全の提言（2003 年度鹿島学術振興財団研究助成研究成果報告書）／研究代表者　杉浦和子
- 地震と土砂災害／監修：建設省河川局砂防部／砂防広報センター
- 1948 福井地震報告書／中央防災会議災害教訓の継承に関する専門調査会
- 都市地理学の継承と発展：森川洋先生傘寿記念献呈論文集／阿部和俊，杉浦芳夫編／あるむ
- 宮若市石炭産業遺産　貝島炭礦／炭鉱遺産「貝島百合野山荘」市民の会
- 上海土山灣藝術／王成義／上海大学出版社
- 五木庄屋元文書報告書／五木村教育委員会
- くずし字用例辞典 普及版／東京堂出版
- 大阪のエスニック･バイタリティ―近現代・在日朝鮮人の社会地理／福本 拓／京都大学学術出版会

事務局から

■2021 年度会計報告

（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

【資金会計】

<収入>	
年会費	282,000
寄附金*	103,000
利子	0
前年度繰越金	197,279
計	582,279
<支出>	
運営会計への振替	296,477
郵便振替手数料	14,753
次年度への繰越	271,049
計	582,279

*故楠原佑氏（1966 卒）および匿名の方からの入金 10 万円を含む

【運営会計】

<収入>	
資金会計からの振替	296,477
秋季懇親会会費*	0
春季懇親会会費*	0
計	296,477
<支出>	
秋季懇親会*	0
講師交通費**	0
OB 交流会経費**	0
春季論文発表会経費**	0
会報・名簿等印刷費***	160,100
会報製本費用	5,742
通信・文具等費****	130,635
弔電・供花等	0
計	296,477

*開催なし

**オンライン開催

***名簿印刷 144,100 円を含む

****名簿は秋季案内と同送

■訃報

前号掲載以降，逝去の報をいただいた方は，下記の通りです。

楠原　佑	（1966 卒）
高橋　正	（1956 卒）
中野　雅博	（1969 卒）
原　剛	（1970 卒）
林　典弘	（1965 卒）
船越　昭生	（1953 卒）
平松　弘之	（1958 卒）
水田　昭夫	（1953 卒）

■住所不明者についてお願い

以下の会員の住所が不明です。ご存じの方は，談話会事務局までご一報ください。

安福　伸光	（1997 卒）
李　禧淑	（2001 博）
飯田　博	（1962 卒）
池浦　正春	（1950 卒）
池上　一誠	（1957 卒）
石角　強	（1970 卒）
石田　陽介	（2002 卒）
石橋　弘嗣	（2006 卒）
石原　大嗣	（1997 卒）
石原　美歩	（1995 卒）
石村　裕輔	（1992 卒）
伊藤　陽子	（2005 卒）
井上　一男	（1955 卒）

井上　喜徳　（1998 卒）
今井　平八　（1944 卒）
岩部　敏夫　（1991 卒）
上田　直人　（2009 卒）
上原　大輔　（1959 卒）
上村　謙介　（1998 卒）
内山　隆之　（1987 卒）
江崎　健治　（1992 卒）
遠藤　正雄　（1978 卒）
大島　健司　（1992 卒）
太田　隆文　（1997 卒）
大津　一郎　（1960 卒）
大野　宏　（1992 卒）
大山　晃司　（1995 卒）
岡本　靖一　（1967 卒）
岡本　美津子　（1987 卒）
興津　俊之　（1991 卒）
小口　稔　（1991 卒）
小野寺　伴彦　（2000 卒）
楓　雅之　（1945 卒）
片寄　弘也　（2004 卒）
勝村　眞知子　（1973 卒）
勝目　忍　（1952 卒）
叶谷　房子　（1998 卒）
川合　大地　（1998 卒）
川合　正展　（1983 卒）
川添　和明　（1995 卒）
貴志　謙介　（1981 卒）
木地　節郎　（1949 卒）
北口　卓美　（1990 卒）
木村　宏　（1949 卒）
木村　洋之介　（1949 卒）
木村　理恵　（2002 卒）
久保田　彰　（2013 卒）
倉田　洋子　（1962 修）
黒田　真　（1989 卒）
斎藤　晨二　（1959 卒）
坂部　誠治　（1991 卒）
重永　隆恭　（1966 卒）
澁谷　良治　（1992 卒）
島崎　郁司　（1996 卒）
嶋野　浩一朗　（1997 卒）
清水　究吾　（1998 卒）
新谷　泰久　（1990 卒）
杉村　正治郎　（1937 卒）
鈴木　伸国　（1988 卒）
高本　正　（1955 卒）
田島　渡　（1948 選）
田辺　賢一郎　（1949 卒）
田村　麗花　（2014 卒）
都子　垰　（1940 委）
津田　朋一　（1996 卒）
乕田　剛　（2014 卒）
長尾　拓磨　（2013 卒）
中筋　護　（1977 卒）
中山　耕至　（1993 卒）
那須　久代　（1988 卒）
楢崎　こず恵　（1998 卒）
南部　一寿　（1999 卒）
西井　理子　（2002 卒）
西尾　正隆　（1970 卒）
西澤　仁晴　（1974 卒）
西山　隆彦　（1995 卒）
能勢　正寛　（1962 卒）
野瀬　美咲　（2010 卒）
林　洋子　（1965 卒）
原　健太　（2003 卒）
原　潤　（1997 卒）
福田　新一　（1971 卒）
古川　昇平　（2006 卒）
前田　奈実　（1999 卒）
松本　弘史　（1983 卒）

御手洗　央治　（1993 卒）
宮澤　博久　（2005 卒）
宮原　耕一　（1994 卒）
村角　浩明　（2006 卒）
保江　志帆　（2003 卒）
山口　一郎　（1980 卒）
山口　秀樹　（1997 卒）
山口　真理子　（2020 卒）
山下　良　（1989 卒）
山田　潤哉　（1997 卒）
山田　憲子　（1970 卒）
山田　浩子　（2000 卒）
山田　康子　（1965 卒）
山中　一高　（1991 卒）
横田　實　（1955 卒）
吉岡　朝日　（2003 卒）
吉野　修司　（1995 卒）
吉村　健志　（2002 卒）
六嶋　美也子　（1993 卒）
渡邉　克己　（2004 卒）

■地理学談話会の運営について

昨年の会報送付時に，会報の電子化や会費のあり方について，ご意見をお寄せいただくようお願いしたところ，10 名の方からご意見を頂戴しました。

まず電子化に関するご意見を紹介いたします（長文でのご意見もいただきましたが，要点を抜粋しました）。

- ［ウェブ上の］会報が更新されたら、更新情報をメールでお知らせ頂けたら、私は十分だと思いました。
- 電子化希望
- 談話会便りは年寄には紙媒体のままが有難いです。
- 会報や名簿以外の諸連絡はメールでも可だと思います
- メール送信で差し支えはありません。
- 紙媒体での送付にかかる紙、印刷、郵送コストを考えますと、消息、動静を確認されるメリットと比較しても、郵送にはデメリットの方が大きいように思われます。何より、会費収入が潤沢でなく、運営費が枯渇されている中、会費を納める立場からは運営コストの削減が最優先ではないかと思われます。
- ご連絡方法については折衷案として、QR コードつきのハガキなどでもよろしいかと存じます。個人的には経費削減につながるのであれば、電子メールを活用頂くことも歓迎いたします。
- メールでの会報送付、賛成です！
- 私は電子メールで構わないと思います。パスワードを付してウェブ上で PDF 掲載というのもアリですかね。
- メイルか紙かの議論は今どこでも起き

ていることと思います。長所、短所、便りに書いているとおりでどちらにするか悩ましいところです。私の場合はメイルを希望します。紙と違って場所を取らない。管理が楽だからです。勿論、紙に拘る人も大勢いるでしょう。それで一つ提案があります。それは来年の通知の際、メイルか紙かの希望をとったらどうでしょうか。

以上のように，電子化を可とするご意見が少なくなかったものの，紙媒体での会報を引き続き希望するご意見もありました。また最後のご意見のように，紙媒体かメールかを個々の会員に選択してもらうというご提案もありました。そのほか，会報に関連して，誌面の内容に「共感を持ちにくい」というご指摘もいただきました。

次に会費のあり方に関して，あまり多くのご意見がありませんでしたが，いただいた内容を紹介します。

・制度上問題なければ、「終身会費 5 万円」など作っても良いかもしれません。
・財政難なら会費を 2,000 円に上げてください。
・会費納入の決済手段がふえると気軽にペイできるかもしれません。(手数料の問題はありますが)
・運営される側と納入する側との温度差があるように思います。

以上のご意見を踏まえて，以下では，今年度の談話会担当教員（米家）の私見を申し述べたいと思います。地理学談話会報は 1990 年から復刊したわけですが，その発行を含め，談話会運営のための財政基盤は，会員の皆様の自主な会費納付に依存しています。その財政規模は，実質的には（名簿作成がなければ）年間 10〜15 万円程度であり，こぢんまりとした運営だといえます。

現状では，ただちに破綻するような深刻な財政難というほどではないものの，今後の会費納付の状況によっては，名簿の作成が困難となることも考えられます。しかしながら，同窓会という会の性格上，会費納付を厳格化するよりも，ゆるやかに談話会が存続できるように，目指していきたいものと思います。

談話会の運営は，独立した事務局によってではなく，地理学教室のさまざまな人的資源の活用によって成り立ってきたという経緯があります。その意味で，会報を含め，諸連絡をメールで行うことは，通信費だけでなく，事務作業の軽減にもつながると期待されます。

しかしながら，現時点では，事務局側が会員の有効なメールアドレスを，十分に把握できているとは限りません。電子化をスムースに進めるためには，一定の準備が必要だと予想しています。まずは本会報の発行後に，事務局側で把握しているメールアドレスが有効かどうか，お伺いする機会を設けたいと思います（お届けいただいているメールアドレスに問いあわせます)。その後，秋季・春季の談話会でもご意見を伺いながら，電子化の方向を探っていきたいと思います。

コロナ禍の下，オンラインでの開催が続いている秋季・春季の談話会においては，遠方の会員にとっては参加しやすいという感想もいただいています。今年度の秋季談話

会については，コロナ禍の動向を注視しながら内容を検討しています。決まり次第，改めてお知らせいたしますので，どうぞよろしくお願いいたします。（米家記）

■会費納入のお願い

一年あたり千円を目処として，それぞれの会員の方々に，談話会の運営経費へのご協力をお願いしております。納入の際は，本会報発送時に同封しております「郵便振替用紙」をご利用ください。また，銀行振り込みも可能ですので，下記の口座にお願いいたします。

みずほ銀行出町支店（普）

1143293 チリガク　ダンワカイ

（チリガクとダンワカイの間にスペース有り）

京都大学地理学談話会　会報　第33号

発行日　2022年6月15日
発行者　京都大学地理学談話会
〒606-8501　京都市左京区吉田本町　京都大学文学部地理学教室内
℡：075-753-2793（直通）
発行所　京都大学文学部地理学教室

京都大学地理学談話会ウェブサイト
http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-danwakai/
会報バックナンバー（京都大学学術リポジトリ「紅」）
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/259238